

発達のご案内になる子どもに寄り添う支援



岡山白ゆり発達支援センター

石原 忍



第1部 保育実践から見える支援のスタンス

- ・ なわとびの保育実践より
- ・ 子どもを育てる3つのアプローチ
- ・ 行動改善に向けて

第2部 個別指導の実践から

- ・ りんちゃん(小2～小6)の指導実践
- ・ 家族の願いと子どもの内発性に寄り添う

第3部 学校・園の担うもの

- ・ 多様性を受け入れる豊かさ
- ・ 個の育てと集団の育て
- ・ すべては肯定的な自己理解力を育てるために



なわとびの保育実践より (0歳児～5歳児)

- 0歳児 独歩獲得 活動場面でのコンプライアンス
- 1歳児 その場でジャンプ リズミカルに
- 2歳児 自分で縄を回せる + ジャンプとの協応運動 (☆)
- 3歳児 通常のジャンプにあやとびを組み合わせる
- 4歳児 あやとび&交差 (技の連続性+組み合わせ)
- 5歳児 二重とび (筋力とスピード 集中力)

長縄の中で短縄をとばせる = 保育者の力量 (センス)



子どもに寄り添う = 課題分析

課題分析 = 何と何と何が出来れば
どんな力を身につければ、その課題が
達成できるかを明確に示す。

集団での育て

(それぞれの年齢の目標)

個別支援

(その子の今のステージ)

保育者・教師の最大の専門性 = 見通しを示すこと
学びの主体者が子どもであるというスタンス = 支援



子どもを育てる3つのアプローチ

1 スモールステップ

簡単な課題から順に提示して、エラーレスで進める

2 プロンプトフェーディング

出来ない所に支援を入れて、段階的に除去する

3 多感覚刺激

周辺領域の力を育てることにより、中心課題に迫る



行動改善に向けて

不適応行動 = 何かそこに必ず理由がある

(子どもの心に寄り添う)

- 行動を理解する
- 行動の背景を読み解く
- あるべき行動を示し、強化してやる
- 原因となる事象を取り除く
- 先手を打つ
- 対応策を事前に準備しておく
- 環境を調整してやる (知育・いすデスク)
- 特性を知り、理解する
- 見通しをもち、見守る
- お試し行動(注目獲得行動) = 指導者の姿勢が問われる

事例 ひー君 6年間の成長のあゆみ

第2部 個別指導の実践から ①

りんちゃん(小2～小6)



2年生2学期から
週1度 90分のマンツーマンレッスン
ダウン症

りんちゃんの特長理解と課題について

- 達成動機が高い (△ 切り替え メモリー 遂行機能)
- 継次処理優位の認知特性

(○ 応答的なやりとり メタ認知 書字 ロールプレイ)
(△ 微細の視覚認知=漢字 読字 数の量的なとらえ)



第2部 個別指導の実践から ②

○ 育てたい力

- 文章を読み、尋ねられた内容に答える力（読み）
- 漢字を正確に認知し、書く力（書く）
- 数を量的にとらえて処理できる力（計算）

○ 基本的な支援のスタンス

- イントロを省略せず、体験的な活動をしていねいに行う
- 達成動機を尊重し、エラーは次回の方略に生かす
- 理解言語を活用した視覚支援のプロンプトフェーディング

(→ 実際のレッスンのようす)

文章を読み、尋ねられた内容に答える力を育てる

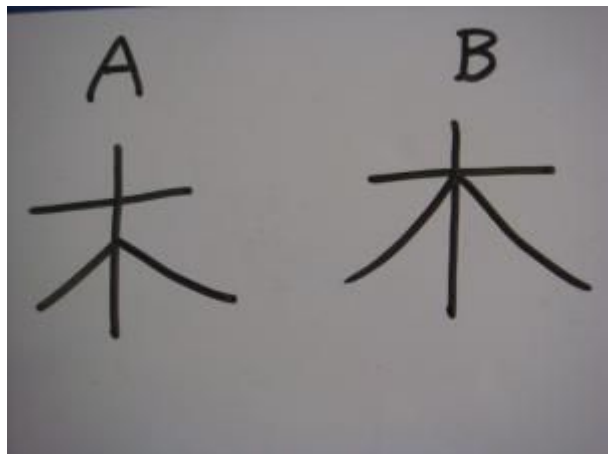
- 豊かな聴覚性言語 内言語 理解言語
- △ 文字を見て、音声化・内言語化していく体験不足

(具体的な学習活動)

「かさこじぞう」(自作教材による実践)

- 視覚認知の脆弱さへの支援 (横書き26P ひらがなルビ)
- 内容に力のある教材(子どもを引きつける教材)を選択
- まずは支援者が範読し、内言語をあたためる
- 選択問題を先に取り組ませ、次に穴埋め問題をさせる
(理解言語をもとに、文脈の中からキーワードを見つける)
- 1枚あたりの内容を精査し、たくさんの枚数をクリアさせる

漢字を正確に認知し、書く力を育てる



「先生、どこがちがうのか わからない」
「教えて」

見えていることと
認知できているこの乖離を支援する

(具体的な学習活動)

- 漢字にかかわる良質な視覚刺激 (パソコン)
- 漢字に読み仮名をふる (視覚支援&先行刺激)
- 複雑な漢字はパーツに分解 (立つ木に見る → 「親」)
- 視知覚認知の弱さ → 4分割のマス目を利用
- 聴覚性の言語支援 「たて・かぎ・たて・横・横」 = 「田」
- アウトプット=美しい字 間欠強化スケジュール 達成感

数を量的にとらえて処理できる力を育てる

順序数との出会い(数との出会い) ⇔ 切り替えができない

数を量的にとらえる
活動体験そのものの不足 + 継次処理優位の
認知処理特性

15-9 (減減法から減加法へ)

(具体的な学習活動)

- ・ 各種算数ゲーム (数え棒、お買い物、すごろくゲーム)
- ・ ブロックによる操作活動 (数の合成・分解)
〈1予備刺激 2教示 3プライミング 4自力操作
5簡略化 6念頭操作 7一般化〉
- ・ プリント学習 (スモールステップ 系統化)



家族の願いと 子どもの内発性に寄り添う

- 微細視覚認知は、10歳から伸びる
- 継次処理の子の書字は、やがて改善される
- レッスンのライブ感 = 型通りの指導ができてこそ
- ノンバーバルな子ほど、ダイレクトに通じ合う
- スマートな育ちなど、どこにもない（子ども&指導者）

→ 「はじめてのおつかい」(動画)



寄り添う = 多様性を受け入れる豊かさ

私の目標

一人一人の子どもが、その持ち味を生かしながら成長し、社会に貢献し、そのことで自分に対する肯定感と幸せを感じて、日々笑顔で暮らせる地域社会のモデルを作る。

自己肯定感 (集団づくりの極意)

家族 < 支援者 < 先生 < 友達 < 地域社会
(必要条件) ←————→ (十分条件)

豊かな社会 = 多様性を受け入れ、一人一人が相互に社会に貢献しあう形 (ユニバーサルな視点)



個の育てと 集団の育て

○ 集団での学びと 個に寄り添った支援

(学校・園での学びの中身)

- ・ 体系化されたカリキュラム(多感覚刺激)
- ・ みんなと一緒にだからがんばれること(要求＝愛情)
- ・ 地域の中の大切な一人という所属感

(個別支援での学びの中身)

- ・ 特性理解に基づいたエラーレス学習
- ・ 長期間にわたって支え続ける存在(肯定的な自己理解)
- ・ 受容と内発性を支援の軸に(内発的な学習意欲)

※ 受容と要求のベストバランスこそ、プロとしての力量

すべては肯定的な自己理解力を育てるために

○ 肯定的な自己理解力(子どもの命のかがやきを見つめる)

「自分の苦手な部分を受け入れた上で
自分自身のことをまんざらではないと思う気持ち」

- メタ認知力＝ゆとりをもって客観的に自分を見つめる力
- 自己理解⇒ 他者受容⇒ 人から慕われる子⇒ 幸せ



連携の中身 (統一すべきこと 専門性を生かすこと)

○ 家庭

- ・ 生涯にわたって子どもと共に生きる (責任と自己決定)
- ・ 決して切れることのない親子の絆 (だからこそ厳しく)
- ・ ありのままの感情とやすらぎの空間 (家庭の機能)

○ 学校・園

- ・ オフィシャルな社会との接点 (教育的な愛情)
- ・ 集団の一員としての所属感 (自己肯定感)
- ・ 体系化された良質のプログラム (多感覚刺激)

○ 支援者

- ・ 内発性と特性理解に基づいたオーダーメイドの学び
- ・ 複数年にわたる継続性と支援者としての専門性
- ・ 心の拠り所となる存在 (カリスマティックアダルト)



第3部 学校・園が担うもの ⑤

子どもは集団の中で育つ

- 学校・園は唯一無二の教育機関
 - ・ 子どもの可能性を信じること
 - ・ 集団の中に居場所がしっかりあること
 - ・ 自己肯定感は、他者からの評価で培われる
(△自分 ○先生・支援者・家族 ◎クラスの仲間)

- 教育の機能が充実してこそ、関係機関との連携が生きる

